

- 1 食の安全にこだわります。
- 2 健康な食べ方を大切にします。
- 3 国内自給力アップをめざします。
- 4 遺伝子組み換え作物を認めません。
- 5 有害物質ゼロをめざします。
- 6 自然資源を大切に使います。
- 7 ごみの削減に取り組みます。
- 8 原発のない社会をめざします。
- 9 おたがいにたすけあう社会をめざします。
- 10 自分たちで決めて、自分たちで実行します。

FEC自給ネットワーク

生活クラブは、全国33の生活クラブ生協のネットワークで、F(Food) E(Energy) C(Care)の自給できる地域を作りだし、サステイナブルな社会の実現を目指します。

自然エネルギー中心の持続可能な社会へ

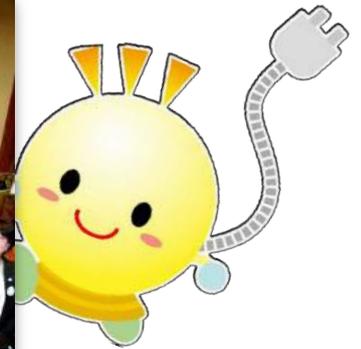


～生活クラブでんきを選ぶとは～

「脱原発と自然エネルギー社会を展望するフォーラム」に参加しました。



でんきくん



生活クラブの電気生産者を先頭に、フォーラム参加者全員で、サムズアップ！

自然エネルギー発電は世界の常識

世界では今、自然エネルギーによる発電へとエネルギーのシフトが起きています。一方日本では、発電量は増加しているものの本格的なシフトはすすんでいません。そんな中、生活クラブでは2014年に(株)生活クラブエナジーを設立し、自然エネルギー中心の電気の共同購入で、持続可能な社会の実現をめざす取り組みを始めました。

自然エネルギー社会を展望

4月20日、東京で、生活クラブ主催の「脱原発と自然エネルギー社会を展望するフォーラム」を開催、166人の参加がありました。生活クラブ都市生活から「住吉川小水力発電所を実現する会」の活動を知らせる時間をいただき、パネリストとして参加しました。

このフォーラムをキッカケに、自然エネルギーを通じて今後どんな社会や未来を描いていけるかをさらにみんなで考えていきたいと、(株)生活クラブエナジーの半澤彰浩さんから挨拶がありました。

世界の歩みから大きく遅れる日本

基調講演として、公益財団法人自然エネルギー財団の大野輝之さんより、世界の自然エネルギー拡大の実態についてお話しいただきました。2015年の「パリ協定」(今世紀後半には温室効果ガスの排出「実質ゼロ」をめざす協定)を実行する最も有効な手段が自然エネルギーで、それが今や世界の常識であるとのこと。しかし日本は依然として化石燃料電力に依存、世界の歩みと大きく差が開いているそうです。

次ページに続く ➡

➡ 表紙からつづく

地域での発電取り組みが活発に

そのあと、各地で立ち上がった小規模発電の取り組みを、3名の電気の生産者が発表しました。

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故を経験し、エネルギーも自分たちの手で作らなければと痛感したという会津電力(株)代表取締役の佐藤彌右衛門さん。また、原発事故のあと、全村避難という事態になりながらも、飯館の土地を守り、将来村民が戻るときのための産業を創造したいという思いで電力会社を設立した、飯館電力(株)取締役の千葉訓道さん。そして、住吉川小水力発電所を実現する会から私、高岡が、関西で生活クラブが初めて取り組む、自然エネルギー事業実現に向けての活動を発表しました。神戸市の住吉川流域に元々水車による産業の歴史があり、自然と共生した小水力発電という発電方法が、住吉の水車の歴史につながることを伝えました。



自然エネルギーを選ぶ意味

これから自然エネルギーを選んでいく意味として、パネリストからさまざまな意見がありました。「電気も消費材。私たちがよりよい食べ物を選ぶように、電気も安心して子どもに渡せるものを選びたい。」「電気も、生活者として自分で考えて選びたい。」「省エネもしながら自分の使う分を作って使う、地域で見える関係を大事にしたい。」会場のあちらこちらにならず顔が見えました。



でんきくん

「組合員が生産者と消費材をつくってきた生活クラブの歴史が、自然エネルギーの分野でも強さになる。」というコーディネーターを務められた法政大学人間環境学部教授の西城戸誠さんの言葉に、元気を頂きました。

このフォーラムで、自然エネルギーによる電力へのシフトが世界的な潮流であり、それは脱原発のみにとどまらず、地域の資源を活かしながら地域の経済を活性化し、持続可能な社会を形づくっていく試みであることが共有されました。

電力小売自由化(2016年)から2年、現在の「生活クラブでんき」の電力供給量が約5,000万kWh、組合員の契約者が約12,000人、調達先の自然エネルギー発電所も55か所まで広がっています。今、でんきの共同購入キャンペーンも行っています。「生活クラブでんき」を利用して、自然エネルギーが広がる未来について考え、実践していきたいものです。

(報告：高岡敦子)

今申し込めば、電気代 1000 円キャッシュバック!

子どもたちの未来のために、生活クラブでんきを選びませんか?

※この機関紙と一緒にお届けしている、お知らせ「生活クラブでんきキャンペーン」からも申込みいただけます。



兵庫県産甘えび磯辺揚げ

180g 税込 408 円



理事といっても同じ組合員。毎日の食生活を支える、おすすめの消費材を紹介します。

====

地元兵庫日本海の甘えび。青のり入りの衣が付いているので、冷凍のまま揚げるだけのお手軽消費材です。

甘えびはもちろんそのまま食べても美味しいのですが、こんな風に丸ごと揚げると、頭からしっぽの先までカリカリと香ばしく、又違った美味しさが楽しめます。スナック風だけ

どえびの身自体の味もしっかり味わえるので、お酒のおつまみにもおかずにもなる便利な一品♪ サラダのトッピングにすると、コクとボリュームも出て美味しいですよ!

(河野陽子)

わたしたちの福祉を実現したい

誰もが安心して暮らし続けることができる社会をめざします

第 2 次中期計画

今年度、生活クラブ都市生活は第 2 次中期計画を策定しました。協同の力で社会問題を解決していくために、2022 年度までの 5 年間で私たちが何をすべきか、何ができるかを検討しました。福祉 (Care) が自給できる地域をつくり出し、誰もが安心して暮らし続けることができる社会をめざします。

福祉理念を掲げます

生活クラブ都市生活は、1995 年の阪神淡路大震災を体験しました。被災したと同時に、組合員の安否確認や必要なところに救援物資を届けるなど、救援活動も行いました。これが私たちの福祉の原点です。今回、中期計画の策定と同時に、福祉についてもこの原点から振り返り、わたしたちの望む福祉を考えました。まとめたものが下の「福祉の理念と基本方針」です。これからの具体的な政策の原点となるものです。

福祉の理念

私たちは、阪神・淡路大震災における支援活動の中で得た気づきを原点に、これまで取り組んできた子育て支援や人と人とのつながりづくり、エコロたすけあい制度など 3 つの共済を通じた組合員どうしの助け合いの促進、そして都市生活コミュニティセンターが積み重ねてきた高齢者福祉の事業とこれからの展開、それらすべてを包括した福祉政策としていきます。

そして、生活クラブグループ全体で取り組んでいる FEC 自給ネットワークの運動と事業を形成する当事者のひとりとして、「生活クラブ 福祉・たすけあい 8 原則」を道しるべに福祉 (Care) の自

福祉プロジェクト

わたしたちの望む福祉、必要とする人に届く福祉を、他人任せにせず、自分たちの手で地域の様々な人たちとの協働や連携によって創り出していきたい。望みは大きいものの、福祉は子ども、障がい者、高齢者、そしてすべてに必要な福祉に関わる人づくりと幅広く、取り組むべき課題は山積みです。私たちに何ができるかを考えるために、福祉プロジェクトを立ち上げました。今私たちに必要なことは何か、具体的に何を実行していくかを考えます。

今年度の取り組みは

まず初めに取り組むべき課題は、子育てへの応援です。組合員だけではなく地域の人にも開かれ、いつでも遊びに行ける、都市生活らしい食をテーマにした企画がある、そんな場所をイメージしています。もっとイメージを膨らませるために、近隣の子育てサークルをいろいろ見学して話し合いを進めています。

給ネットワークづくりを推進し、豊かな人と人とのつながりに支えられた、誰もが希望をもって安心して暮らせる地域社会の実現をめざします。

基本方針

- 参加型福祉を追求します
- 人と人とのつながりを創りだします
- 必要な協同の仕組みを創りだします
- 生活協同組合の基本的価値と特長を生かします

※全文は生活クラブ都市生活ウェブサイトをご覧ください。

エコロ mini レター

ガイドブックが新しくなりました！

6 月からの制度改定に伴い、エコロたすけあい制度に加入されている方には改定版ガイドブックをお届けしています。制度の仕組み、どんな時に、何を頼めるのか、依頼のしかたなどが詳しく書かれています。また申請書の類もすべてここに載っ

ています。この一冊でエコロが分かり、使えます。私も読んでみたい、という方は組織部 (078-904-3260) 担当小松にお電話を。ガイドブックをお届けします。しっかり読んで「私の使える！」を探してみてください。

3月

エコロたすけあい制度利用状況

加入者：1,084 人

給付申請件数	61 件(コーディネート件数 0)
給付金額	155,350 円
エコロサークル活動費	61,600 円
事務費※	1,900 円

※審査会会場費、交通費他

2017 年度エコロたすけあい制度報告

	2017 年度末目標	2017 年度末実績
期首加入者数	740 名	740 名
新規加入	365 名	412 名
脱退・解約	0 名	68 名
加入者数	1,105 名	1,084 名
掛金収入	1,129,500 円	1,137,300 円
給付金	1,041,000 円	662,250 円
事務経費		99,608 円
剰余金	88,500 円	375,442 円

食の教室を開校して丸3年。 同窓会を行いました。



食の教室とは、年間で12講座の食育企画を受講するしくみです。食への知識が増えることはもちろんですが、組合員どうしの繋がりも深まります。



久しぶりの食の教室。
みんなで作った生春巻き
はさすがの出来栄え！



再会…久しぶり～♪

4月19日、12名の卒業生が名谷センターの食育スタジオに集まりました。久しぶりに会う顔、「わぁ、元気でした？久しぶり…」の歓声で、開始前から会場は大賑わいでした。全員で、3月に放映された、「カンブリア宮殿」を見ました。「生活クラブの立ち上げられた意義や、目指していることがよく分かった。」「加入していることに誇りがもてた。」「ワーカーズという働き方がすごいと思った。」「すごい牛乳だと思った。タオルを集めたことがあるが、どのように使われるかはじめて知った。」等々、いろいろの感想が出されました。みんなで見て、話し合うことで生活クラブについて理解がより深まりました。

この日のランチは生春巻きでした。プロジェクトメンバーが作り方を実演したあと、各自で作りました。たくさんの野菜が、とてもおいしく食べられました。

受講生からメンバーが誕生！

この卒業生の中から2名の方が食育プロジェクトメンバーに入って下さることになり、これから一緒に活動していきます。また、受講生同士の繋がりや輪も広がっています。4年目の今年度も開校、みなさんの応募をお待ちしています。

(食育「おうちでごはん」プロジェクト 山田 多美子)



「お茶会」を楽しんでいます

サービス付き高齢者向け住宅「パンセ武庫之荘」では、併設している小規模多機能型住宅介護の利用者も増えてきて、利用者の居場所となる1階デイルームは心地よい雰囲気の空間です。

そこで私たちは、毎月、お茶会を開いています。今年最初に「初釜」を楽しみ、2月はバレンタインデーのチョコレートケーキを用意しました。4月は、道路を挟んだ公園の満開の桜を大きな窓のある2階のデイルームから眺める「お花見会」でした。子どもを連れて参加した組合員がいたことで、その場の雰囲気が明るく元気になりました。

「パンセ武庫之荘」を私たちの福祉の拠点としていくために、ボランティアで関わる人を増やしていきたいと考えています。

お茶会は誰でも来てもらえる時間です。同時に施設見学もできます。尼崎支部の機関紙とサイトでお知らせしていますので気軽に参加して雰囲気を体感してみてください。



1階の中庭で、みんなで合唱を楽しみました。

NONちゃんのGM(遺伝子組み換え)講座



各支部でも調査しました！

安全性や人・環境への影響が心配されるGMの広がりを監視する活動が、GMナタネ自生調査です。搾油原料として小さな種の状態で輸入されるナタネは、粒が比較的大きな大豆やトウモロコシに比べて、輸送時のこぼれ落ちにより自生しやすいのです。

エリア内の10支部で、それぞれ幹線道路沿いの中央分離帯や、河川敷などに咲いているナタネを探して採取し、カンパで購入した実験キットを使ってGM陽性か陰性かを検査しました。採取したナタネを支部ミーティングの場で検査した支部もあり、この活動を身近に感じる事ができました。幸い支部の調査では全て陰性でしたが、5月号で報告したように深江浜では陽性ナタネが見つかり、過去には内陸部でも見つかったので、継続して調査する必要があります。



アースデイ神戸に参加



GWが終わりに近づいた5月4～5日。私たち東神戸支部の、地域のド真ん中にある「みなとのもり公園」で開催された『アースデイ神戸』に、今年も生活クラブ都市生活がブースを出すということで、5日にお手伝いをしてきました！

生活クラブの良さをアピールして加入をおすすめしたり、消費材のドリンクを販売したりは職員の皆さんにお任せし(笑)、私は子ども工作の「紙コップロケット作り」を担当しました。



子ども工作が大人気！参加者が途切れることがありませんでした。

広く生活クラブを知らせる機会に

子どもたちと楽しくロケットを作りつつ背中で感じたのは、環境や食育、子育てなどがテーマのイベントだけに、生活クラブが安心・安全な食材を扱っている生協であることに興味を持って下さる方が、私の想像より多かったということ。また、大きい会場だけあって、地域外の遠くから足を運ばれる方も多く、広く生活クラブを知っていただけたようで、ほっとコミやポスティングなど、いつも自分たちがやっている『仲間づくり』の活動とは違った形のきっかけを作れる場であるとも感じました。

地域に広げる仲間づくり

このアースデイはもちろんですが、生活クラブのことを知らないたくさんの方が集まるイベントやおまつりに参加できる機会をみつけて、今後もどんどん参加して、仲間づくりができるようにしていきたいと思います。

(東神戸支部クリエイター 草野睦美)

今月の組合員

娘も私も生活クラブ

宇野 彰子さん 西宮支部 1999年10月加入

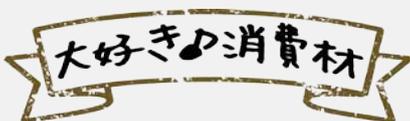
長女が急に一人暮らしをすることになりました。「お母さん、京都で都市生活とりたいんやけど…」京都は配達エリアじゃないよ。「えー困るーお気に入りがいっぱいあるんやもん。」そんなことを娘から言ってくれるなんて…とても嬉しい！！

娘が産まれていくつか宅配を試してみたけれど何か違うかも。近くで食の安心・安全・こだわりの生協ないかなと電話帳で探して電話をかけ、近所の班を紹介して頂いたのが生活クラブ都市生活との出会いです。その当時は班利用のみでした。

まず、調味料から変えてみると…お料理に自信がなかった私も家族に美味しいと大好評。それから台所用洗剤をせっけんに変えてみたら…あんなに手荒れがひどかったのにすぐに治ってびっくり。消費材の本物の味や良さを実感して、どんどん好きな消費材が増えていきました。

クリエイターをしている同じ班の方から誘われたのがきっかけで、活動に参加するようになりました。生産者さんの思い、組合員同士のつながり・助け合い、職員さんとの関わり、生活クラブを身近に感じ、知ることによって世界が広がりました。

娘は京都の生活クラブの組合員になってもうすぐ2年。活動にも気軽に参加してみたらとささやいています。我が家にとってなくてはならない生活クラブ。これからも利用し続けて伝えていきたいと思っています。私から娘へ～娘からその次の世代へ～



＝さけ茶漬＝

みえぎよれん販売(株) 448円(税込)

もともと我が家の朝食はパン派でしたが、息子たちが大きくなるにつれ、お米の方が腹持ちすると言いだし、今では毎朝ご飯派になりました。育ち盛りには良いのですが、私たち夫婦には毎朝ご飯は重い時もあり…。そういう時に、このお茶漬が我が家の朝に登場します。

温かいご飯にさらさらっと振りかけてお湯を注ぐと、昆布出汁の香りが湯気とともに、ふわっと漂います。口に茶漬を含めば、ほぐした鮭のちょっとした塩気とお米(竜おうみ米!)の旨みが良い加減。そして海苔と抹茶の甘みがそれに続きます。

国産の鮭に、それを煮きたてる調味料は提携の生産者が作ったもの。1つ1つの素材が主役級の育ちの良さ。それぞれにきちんとした旨みをもつ美味しさがあるからこそ、お茶漬にすることで味のハーモニーが生まれるように思います。そして本当の旨みが感じられるお茶漬なんて、実はなかなかないよね、と思います。子どもたちも違いが分かるようで、美味しい～と嬉しそうに頬張ってくれます。我が家の朝には、なくてはならない逸品です。(東神戸支部担当理事 内田瑞穂)



つれづれとしせいかつ

徒然都市生活

ボランティアを続けています

地域で活躍する生活クラブ都市生活の仲間

東神戸支部 岡部 眞紀子

阪神淡路大震災を経験して

1995年1月17日、阪神淡路大震災が起これ、あれから23年が過ぎました。あの時から、私は助けられた命と思って色々な活動をしてきました。

その一つが地元ポートアイランドの1,100戸の仮設住宅支援です。それを皮切りに、その後できた脇浜災害復興住宅で、みんなが集える場の提供を目的に、ふれあい喫茶「すまいる」を開始。18年続けてきた活動を、もう役割は終えた！と、この3月で終了しました。

もう一つは心の癒しに有効とされる音楽療法、ミュージックセラピーグループ「ハーモニー」の活動です。現在、会員数56人で14ヶ所に定期的にセッション活動を行っています。生活クラブ都市生活で、毎年養成講座の受講生を募集させていただいているのを、ご存知でしょうか？

「すまいるサロン」始めました

最近、活動を通して高齢者に関わる事で見えてきたのが、65歳以上の4人に1人が予備軍と言われる認知症。そして認知症に



なってもその地域で暮らせて行ける街にしたいと思い、ポートアイランドで昨年4月から「すまいるサロン」をオープンしています。食材は全て生活クラブの消費材を使用しています。つい先日のサロンで食べ物のお話から、お誘い試食会をしたいとの要望があり、近々やる事になりそうです。

という感じで、食べ物や健康・認知症・反原発・憲法など何でも話したり、音楽療法で歌を歌ったり、認知症予防体操をしたりと何でもありのサロンです。今はまだ認知症の方やその家族の参加はありませんが、高齢者・子連れ親子・児童など誰でもがふらっと立ち寄れるホッとできるふれあいの場にしたいと思っています。また、私が福島出身でもあるので、原発避難者支援で原発賠償訴訟を応援しつつ、原発由来の電気ではない生活クラブでんきへの切替も勧めています。

理 事 会 報 告

2017年度第12回臨時理事会報告2018.4.26.10:00~12:10 於神戸市勤労会館406号室

1. 姫路支部会計について、2015年度支部会計処理の経緯と理事会からの戻入処理を2017年度会計でおこなうことを確認した。
2. 2018年度理事会担当の修正を確認した。
3. 2017年度決算報告を確認し、監事会からの監査報告を受けた。
4. 総代会議案の全議案の確定を確認した。
5. エコロたすけあい制度の制度改定にともなうガイドブックの作成について修正提案を確認した。
6. 米産NON-GMトウモロコシ取組み維持方針について単協意見を確認した。

2017年度第13回理事会報告2018.5.7.10:00~15:30 於神戸市勤労会館407号室
(報告承認事項 2項目、協議決定事項 4項目 省略)

1. エコロたすけあい制度3月申請分給付審査結果を確認した。
 2. 生活クラブ関西4月度運営委員会の報告を確認した。主な案件は、①関西青果統一推進材「柿」の取り組み提案。②今シーズンの青梅の企画、規格・価格確認。③関西青果委員会とネグロスツアー実行委員会の報告。
 3. 通常総代会開催関連事項として、当日スケジュール他を確認した。
 4. 生活クラブ連合会総会代議員を確定した。
 5. 2018年度シャボン玉月間活動の提案を承認した。
 6. TCC事業改善計画と実行状況についてTCC理事会報告を確認した。(諸会議報告)
- 連合理事会、各委員会の報告および各担当委員会の報告を共有した。
(事業報告)
- 4月度の加入は、「カンブリア宮殿」視聴者対応を含め、263名となり、計画数・前年比とも上回った。脱退は133名で、計画より23名多い。



Q
A

缶詰内面のコーティングは身体に悪くないの？

缶詰の内面には、貯蔵中の色や味の変化及び缶の腐食を防ぐため

の塗装がされています。エポキシフェノールというプラスチックが塗料として使われていると、その原料として使用されるビスフェノールAが溶出し、飲食物に移行する心配があります。ビスフェノールAは、「環境ホルモン」(内分泌かく乱物質)と呼ばれる物質の一つで、体内に入ると、生体ホルモンとそっくりに働いて免疫系や自律神経系に影響を与えることや、生殖異常との因果関係などが指摘されています。

生活クラブでは、PETフィルムのようなエポキシフェノール以外のコーティングに変える等、環境ホルモン対策をすすめた缶容器を使用しています。



一人ひとりの「食べる力」を集めよう！

生活クラブの消費材は、食べる側・使う側が「こうあってほしい」と考え、独自の基準で作ってきたオリジナル品がメイン。いつでもどこでも買えるわけではありません。カタログへの登場を待っていても、残念ながら、企画が中止や休止となる消費材もあるのです。



まぐろフレーク油漬缶

6 月から供給の代替品。こちらは、真塩や乾燥野菜のスープなど、これまでとほとんど変わることはありませんが、外国船籍漁獲のキハダマグロが原料となります。

「温州みかんジュース」の原料が足りない！

例えば、「温州みかんジュース」。国産みかんの外皮をむいて絞ったストレート果汁100%のおいしさで、生活クラブを代表する人気消費材です。しかし、今年度も、国産みかんの生産量が少なく原料確保が十分でないため、900mlの取組は休止。485mlや缶入りのみの供給となります。

原料不足の背景は…

みかん栽培は、戦後、西日本を中心に広がりましたが、1970年代からは輸入自由化によって、みかんの栽培面積・農家戸数ともに減少に転じました。そして、高齢化が進み、後継者も少ない

ため、さらに急速な生産量の減少が進みつつあるのが現状です。



485ml びん入りを
利用しましょう！

そういった状況を受け、生活クラブでは紀伊半島の生産者が、持続生産に向けた協議会を作って加工用温州みかん栽培についての検討を始めていますが、すぐに生産量が上がるというものではありません。

カタログに登場しない品目の裏にはいろいろな事情が…

その他にも、原料となる水産物の漁獲高の減少で生産できなくなる水産加工品や、製造機械の更新ができずに終了するもの、単純に予想したほどの利用がなくて中止になる加工品などもあります。

持続的な生産には「食べる力」を！

消費材は、安全・健康・環境を大事な価値とする独自の厳しい基準でつくられてきました。そして、持続的な生産には、持続的な安定した消費＝利用結集が不可欠です。不安定な天候への対応は難しくても、国内産を中心とした消費材の利用を続けることで生産を守っていくことはできます。こんな時こそ、私たちの「食べる力」を集め、使う人の輪を広げていくことが大事ではないでしょうか。

職員こぼれ話

組織部
山本 晋也

生活クラブ都市生活の職員が、日ごろの業務、身のまわりのできごとを通して見たもの、聞いたことをお伝えします。

生産者と呑んだ席で

週に1日配達をしています。他の曜日は生協祭の準備をしたり、生産者交流会に顔をだしたりしています。昨年末の話ですが、生活クラブの生産者が集まる会合に出席した時の事。顔見知りになっているいくつかの生産者とその場の流れで飲みに行くことになりました。「うちの消費材は～」とか「生活クラブって～」とか「都市生活は～」とアピール合戦みたいになり、いずれも同世代ばかりだったので朝まで大盛り上がり。普通なら取引先とお客様の関係のように上下関係があるのですが、生活クラブはあまりそういうのを感じないのです。生産者も職員も組合員も、それぞれの場面で活躍し、一緒にサステナブルで豊かな暮らしを目指しているのを感じた一夜でした。

2018 年 4 月号より

機関紙モニターのつがやき

「春の試食キャンペーン」

私もこのホットケーキミックスのサンプルを頂いたのがきっかけで、生活クラブの加入を決めました。「なんて美味しいんだろう！」と感動したことを覚えています。普段あまりお菓子を作らないのですが、このホットケーキミックスは常備しています。アメリカンドッグはわが家で大好評です。私もお友だちに自信を持って渡せます。(姫路 長谷川千加子)

編集雑感

6～7月はシャボン玉月間。合成洗剤をやめてせっけんを使いましょうというキャンペーンです。でも、せっけんをたくさん使おうと言っているわけではありません。せっけん利用を通して水環境について考え、家庭からの有害化学物質排出を減らそうということ。しかし、巷は合成洗剤だらけ。手荒れがひどいとか、赤ちゃんのおむつかぶれが治らないとか…私はせっけんに変えることで改善しましたよ。お試しを！(T)